

B - 5

相談員が稼働率低下を招く要因

コロナクラスターを通して見えた真実

稼働率

感染症

入退院支援

広島市 東区

特別養護老人ホーム ふくだの里^{さと}相談員 工藤^{くどう} 秀司^{しゅうじ}

fukudanosato@joukou.or.jp

施設（事業所）
またはサービスの
概要

広島市東区福田にある特別養護老人ホーム。定員 80 名の従来型施設。建物は 2 階建てとなっており、1 階 37 床 2 階 52 床の施設。各階単位を 1 つの居住空間として生活を行っている。

Ⅰ. <取り組み課題>

過去 4 度のコロナクラスター時の稼働率低下を分析し、低下した要因と対策を検討した。
これによりクラスターを起こしたとしても稼働率低下を起こさない相談員の対応方法の確立を課題とした。

Ⅱ. <具体的な分析>

- ① 感染者の入院時期による入院日数を分析した。
早期に入院相談を行った場合と施設にて療養していただいた場合での各利用者様に与える影響を分析した。
最も入院日数が長かった第 1 波と第 4 波を比較した。
- ② 施設全体を閉鎖する事による稼働率に対する弊害を分析した。
感染対応にのみ集中することが出来るため施設全体を封鎖したが、入所や退院などを先延ばしにしたため空きベッドが出た際に活用が出来なかった。
- ③ 相談員としての感染対応時の優先順位の分析を行う。
感染対応に追われ入居相談などの業務が出来ない状況にあったため何に時間がかかっているのかを分析した。
その結果行政連絡や家族連絡に時間がかかる事が判明。

Ⅲ. <活動の成果と評価>

- ① コロナウイルス感染症はこれまでの風邪などの感染症より高齢者に与えるダメージが甚大であると判断し、早めの入院や受診の相談を行う事により
第一波のときは平均入院日数が 19 日であったが第 4 波では平均 9 日だったことから早期の病院への相談が重症化を防ぐと考えた。
- ② 空きベッドを有効活用するためにフロア単位での感染対応を行い非感染フロアは出来る限りの通常業務を行い、入所や退院なども受け入れた。それによりコロナクラスター中の稼働率減少を 5.2%減から 2.7%減に留める事が出来た。
- ③ 感染対応時の行政への報告や家族連絡などをリスト化することにより感染対応に係る時間を短縮する事が出来たためコロナ期間中であっても入所相談を受ける事が出来たことによりクラスター中の申込件数が 0 件から 4 件に増加した。
以上のことを踏まえた上でゾーニング及び感染対策を行う事で稼働率の低下を抑止する事ができるのではないだろうかと考えた。

Ⅳ. <今後の課題>

クラスター中の取るべき動きは明確化できたのだが、終息後からの稼働率の回復について課題が残る為今後検討していきたい。

Ⅴ. <参考資料など>

施設内での 1 事例のごとの感染者数及び入院者などの詳細なデータをもとに作成。